

ベルーフニュース vol.37

発行日：2020年10月13日

♪企業の雇用事情報告

企業に対して、行政機関による障害者の採用支援が行われております。東京しごと財団の活動もそのひとつです。S社は、財団からの紹介でベルーフに見学にいらした会社です。IT企業で、システムの開発サービスを事業としています。採用担当の責任者と営業担当者が一緒に訪問です。採用の実情を伺うと、面接への応募者は増えているが、中々採用までには至らないとのこと。応募者の働きたいとの意欲は十分なのですが、お互いの求めるものが一致しない事が多いようです。どんな仕事ができるかという点で、「私が求める仕事」と「お客様が求める仕事」のレベルの開きが大きい採用に至らないとのこと。ベルーフへの見学目的は、お客様が求める仕事のレベルかどうかを見定めるためのもので、営業担当者の同行はそのためです。専門職の育成を行っているとの推薦を受けての見学なので、研修の技量レベルについて関心が集まります。カリキュラム内容、実際の講習、研修生の取り組みについてシビアな質問が寄せられています。障害者なのでという福祉的な基準は無く、業務基準での判断が成されています。技量は本物か偽物か、ずばり踏み込んできます。今期はちょうどプログラミングのC言語カリキュラムなので、具体的に検討がされています。S社からは結果として、今後採用のための提携をしていきたいとの結論を伺っています。以上の報告は企業が何を求めているかの一端を示すものです。障害者の就労意識として、真面目に仕事ができれば採用の機会を得ることができると思う例を聞きますが、真面目さは決め手にはならないのです。ドイツでは商工会議所が仕事の基準を定め審査が行われるので、採用する側は客観的な判断が明確にできます。日本ではそのような審査基準は無く、障害者の採用に当たって企業自身で判断しなければならないというのが、実情です。ベルーフとしては企業

の判断のお役に立てるよう、専門的業務を目指しての研修教育を行い、採用の実現を図っています。また昨今の状況で、**covid-19**を採用の阻害要因としないよう支援の充実を目指していこうというのが方針です。

♪哀悼 クラウス・ヘルトランプ氏

クラウス・ヘルトランプ氏が逝去されました。リタ夫人から9月7日に亡くなられたとの悲報です。夫妻は一年前の2019年4月にバカンスのアジア旅行で東京に来ています。小石川で宴を囲み、夜半ベルーフに来て頂き仕事を見て貰いました。「自分たちもこういう具合に始めた」と励ましてくれました。クラウス氏はレーベンスベルテンの社長です。レーベンスベルテンはベルリンに拠点を置くソーシャルファームで、イベント&ケータリング事業を始めとして5つの事業を展開している企業です。ベルーフにとって目指す企業モデルとして、これまで様々な支援を頂いています。心強いヨーロッパの同志としてスクラムを組んでいただけに、大きな喪失感です。穏やかなコミュニケーションで戦うクラウス氏をこれからも思想の伴侶として忘れることなく、ソーシャルファームを実現する、というのがベルーフの哀悼の意です。チュース！



就労移行支援事業所ベルーフ

東京都指定障害福祉サービス事業所 1310500739

〒112-0002 東京都文京区小石川5-4-1 瑞穂ビル9階

E-mail info@beruf.xyz Web <http://beruf.xyz/>

Facebook <http://www.facebook.com/beruf.xyz/>